

総合	第2学年	府中町立府中中学校	指導者	松野真直 安井秀俊 木村拓磨
単元名	総合的な学習の時間「地域交流プロジェクト」 ～住みたい町をめざして～			
	本単元で育成する資質・能力	課題発見力	他と関わる力	自ら行動する力

- ◇ 日 時 令和4年10月19日(水) 5校時
- ◇ 学年・組 第2学年(総合リーダー)36名

単元について

◇単元観

本校では中学校3年間を通して、「10年後も住みたい府中町であり続けるためには」というテーマのもと、総合的な学習の時間を展開している。その中で地域課題に焦点をあてた「椿プロジェクト」と生徒自身の生き方に焦点をあてた「志プロジェクト」の2本柱で3年間の総合的な学習の時間を計画している。

本単元は「椿プロジェクト」に位置付くものであり、第1学年の「地域交流プロジェクト～笑顔・挨拶・活気あふれる府中町～」の学習の上に設定された単元である。第1学年「椿プロジェクト」では10年後も住みたい府中町であり続けるために「笑顔・挨拶・活気あふれる府中町」を実現させたいという生徒の思いから単元を構成し、役場の方へのインタビューやフィールドワークを通して学習を展開した。

本単元は第1学年で身に付けた視点を活かし、府中町と修学旅行で訪れる地域(京都・大阪)を生徒が自ら考えた視点で比較したり、結びつけたりすることで、新たな府中町の魅力を発見したり府中町をよりよくする方法を提案したりする学習とする。第1学年時には府中町内のみであった学習の場を他地域の文化や伝統を見つめることによって、府中町と結び付けたり、比較したりするという視点から修学旅行がより「自分事」になり、新たな課題の創造や実行につながるということが期待される。

また、「椿プロジェクト」からの視点だけでなく、「自分に何ができるのか」という「志プロジェクト」の視点でもある自己理解、自己管理能力の育成が期待できる。以上のことから生徒が今まで総合的な学習の時間で学んだことを、より発展させ、修学旅行での学びを自分事にすることができ、主体的に学習を進めていくことができる単元である。

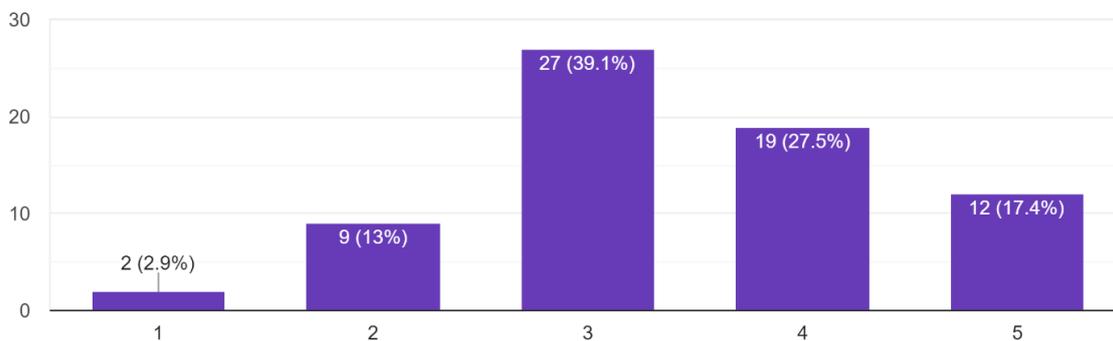
◇生徒観

本学年の総合的な学習の時間ではプロジェクトごとにリーダーを募り、総勢70名のリーダーを中心に学習を進めている。第2学年の「志プロジェクト～心配りを日常に～」では、リーダーがそれぞれの学級で職場体験学習を通して中学生として何ができるか、どのような力を身に付けたいのかを話し合い、まとめた。それをリーダー同士で話し合うことによって学習の指針を決めていった。昨年度からこのような方法で学習を進めているため、本学年の生徒は、話し合い、まとめ、合意形成を図る能力が身につけてきていると考える。また、リーダーたちは人前で話すこと、人をまとめること、みんなの考え方をまとめることの難しさを実際に体験したり、聞いたりしているが、今回のプロジェクトも総勢69名のリーダーが集まった。総合的な学習の時間に主体的に参加しようとする生徒が多い。

※リーダーのアンケートより

自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる。

69件の回答



椿プロジェクト実施前の総合リーダーアンケートにおいて、「自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる。」とする肯定的評価が80%以上であった。このことから、学んだことをGoogleスライドにまとめ、発表するという事に慣れてきており、自信を持つようになってきていることが分かる。しかし、原稿やスライドをそのまま読むという発表も多く見られ、「分かりやすく伝える」ということにはまだ課題がある。

◇指導観

指導に当たっては、修学旅行での学びを持ち帰り、府中町をよりよくすることにつなげることを確認し、意識させる。単元の初めに、修学旅行で他地域をどのような視点でめぐるのかを決定する。「府中町をよりよくする」ために府中町(身近)と他地域を結び付け、府中町をよくするためにどのような視点で調べたいのかを班、学級で話し合い、リーダーがまとめる。それをリーダーが持ち寄り、学年全体の学習を方向付け、自分たちが修学旅行や総合的な学習の時間を創造していくという実感を持たせたい。また、決定した修学旅行の学習の視点に基づき、テーマを第2学年生徒一人一人に考えさせることで、学ぶことに責任感を持たせ、修学旅行をより「自分事」にさせたい。

また、本校の総合的な学習の時間で3年間を通して取り組んでいる「プレゼンテーション能力の育成」に関して、生徒はタブレット型ノートパソコンでGoogleスライドを用いることで発表を行ってきた。引き続き原稿を見ないで話すこと、人に伝わりやすい発表を行うことの指導をしていく。

単元の終末では3学年時で予定されている「椿フェスタ」につながるよう、修学旅行で府中町と他地域を比較し、府中町をよりよくするための提案を実行するという計画を現在持っている。

指導の系統

第1学年「椿プロジェクト」
～笑顔・挨拶・活気あふれる府中町～

第1学年「志プロジェクト」
～「一人一人が創る夢」
～自分が誇れる将来を目指して～明るく・楽しく・前向きに～

第1学年「椿プロジェクト」
～守られる防災から守る防災へ～

第2学年「志プロジェクト」
～気配りを日常に～

第2学年「椿プロジェクト」
本単元

本時の学習（5時間目／全21時間）

◇本時の目標

それぞれのクラスで出てきた京都・大阪で調べたいことを KJ 法でまとめ、修学旅行での調査の視点を決定することができる。

◇学習の流れ

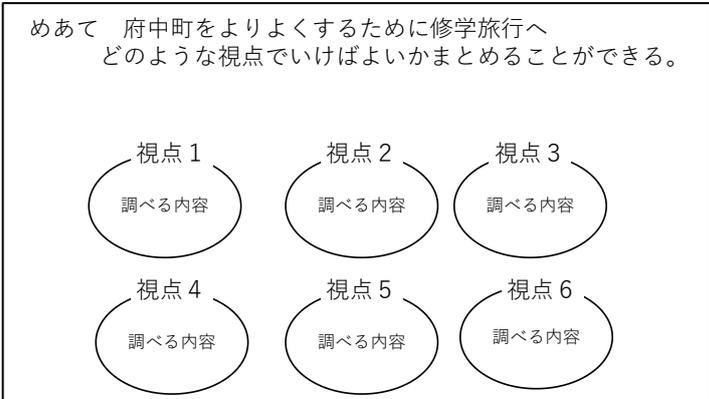
学習活動	T1 指導上の留意点 (◇) 予想される児童の反応 (・)	T2	T3	評価規準 資質・能力 (評価方法)
1 学習計画と付けた い力を確認する。	◇学習の見通しを持たせるために、今日の学習が単元のどこに位置するかを知らせる。 ・前はクラスでどのようなことを調べたいか話し合ったよ。 ・ルーブリック(本時の目指す姿)を確認する。			
2 めあてを確認する。				
めあて 府中町をよりよくするために修学旅行の自主研修のテーマを決定することができる。				
3 グループごとに、 活動内容を確認し、 学習を進める。	◇クラスごとにグループを作り、それぞれのクラスの意見を KJ 法でまとめ、視点を導き出させる。 ・お茶や織物は「和」という視点でまとめられそうだね。 ・金閣寺や清水寺は「観光」という視点がいいかな。 ・ごみや町並みは「街づくり」という視点がいいかも。 ◇クラスごとに出てきた視点を発表させ、同じ視点でも相違点がないかなど考察をさせる。 ・テーマは同じでも内容が違うかも。 ・テーマは1つでもその中にいくつかの視点があれば面白いかも。 ・一人一つの視点を調べたらいいかもね。	◇1・3・5 組のグループの助言を行う	◇2・4・6 組のグループの助言を行う	目 府中町をよりよくするということからKJ法で調査の視点を導き出し、修学旅行を自分事にしようとしている。(行動観察・振り返り)
4 グループ(クラス)ごとにどのような視点が出てきたのかを発表し、黒板にまとめる。				
5 振り返りをし、次時の活動の見通しを持つ。	◇本時の視点で修学旅行を自分たちで作っていくことを捉えさせ、次からの学習へ意欲を持たせる。 ・修学旅行は自分たちで計画していくんだ。 ・他地域の伝統や文化などの学びをしっかりと府中町に持って帰りたいな。 ・視点をさらにどんなジャンルでわけよ	講評を行う	講評を行う	

	うかな。			
--	------	--	--	--

本時のルーブリック

主体的に学習に取り組む態度	
S	<ul style="list-style-type: none"> ・府中町をよりよくするという目標からK J法で調査の視点を導き出し、修学旅行を自分事にしようとしたり、他のクラスの視点を自分クラスの視点と比較し、相違点や共通点を考察し、新たな視点やジャンルを創造したりすることができている。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・府中町をよりよくするという目標からK J法で調査の視点を導き出し、修学旅行を自分事にしようとしたり、他のクラスの視点を自分クラスの視点と比較し、相違点や共通点を考察したりしている。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・府中町をよりよくするという目標からK J法で調査の視点を導き出し、他のクラスの視点を自分クラスの視点と比較し、相違点や共通点を考察している。

板書計画



椿プロジェクト「地域交流プロジェクト」

～住みたい町を目指して～



単元の見直し

相手の立場に立つてする力を身につけるために、京都での伝統文化、USJでのイベントの体験や他地域と府中町との比較を通して、自分の地域や文化を継承、生かすことについて関心を持ち、府中町の発信の仕方について考えるとともに、自分の生き方や地域との関わり方を見直し実践しようとする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 知った事実と、これまでに学習したことを関連づけ、新しい知識として獲得している。 ペアトークやグループトークで友達の意見と比較しながら自分の意見を述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝える相手に伝えたいことが分かってもらえるような表現方法で自分の考えをまとめている。 相手の意見を受け入れながら、自分の意見も話している。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習したことを生かし、目標を達成するための具体的な方法を考えて実行している。 グループ等で一緒に学習しながら、あきらめないで最後まで主体的に取り組んでいる。

小単元のゴールに対するルーブリック

小単元のゴール			
地域交流を通して府中町を見つめなおし、住みたい町とは何か考えよう。			
課題発見力	他に関わる力	自ら行動する力	
S	<ul style="list-style-type: none"> 府中町の伝統文化の発信と京都や大阪の伝統文化の発信を関連付け、「身に付けたい力」を考え、その力をつけるために何をすればよいか考え、実行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行で学んだ伝統や文化の継承、体験、その発信の工夫などをまとめ、府中町ではどのようなことができるかという提案を含め、相手に伝わるように表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予測していなかった事態に遭遇した時に、グループで話し合い、諦めず最後までやり切ることができる。
A	<ul style="list-style-type: none"> 府中町の伝統文化の発信と京都や大阪の伝統文化の発信を関連付け、「身に付けたい力」を考え、その力をつけるために何をすればよいか考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行で学んだ伝統や文化の継承、体験、その発信の工夫などをまとめ、相手に伝わるように表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予測していなかった事態に遭遇した時に、諦めず最後までやり切ることができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> 府中町の伝統文化の発信と京都や大阪の伝統文化の発信を関連付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行で学んだ伝統や文化の継承、体験についてまとめ、相手に伝わるように表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予測していなかった事態に遭遇した時に、諦めず最後までやり切ることができる。

他教科等及びSDGsとの関連

〈国語科〉「話す・聞く」「書く」
 〈社会科〉「日本の様々な地域〈地域調査の手法〉〈日本の諸地域〉〈地域の在り方〉」
 〈道徳〉「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「書道パフォーマンスの挑戦」
 「社会参画、公共の精神」「今度は私の番だ」「住みよい社会に」
 〈SDGs〉



府中町をよりよくするために他地域でどのようなことが調べられるだろうか？

10年後も住みたい府中町であるために、どのように府中町の伝統を継承し、発信すればよいのだろうか？

4 まとめ・表現 (2時間)

○様々な体験をしてきた班の発表を聞き、他地域での学習をどのように府中町に還元すればよいか考える。主(1)

- みんなの発表を聞いてキーワードはこれだと思った。
- 次の椿プロジェクトは実際になにかに働きかけてみたい！
- みんなが体験したものには共通点があるな。
- 自分には府中町のためにこんなことができるかも。

○次の学習の見通しをもつ。

- 今回学んだことや今まで学んできたことを活かして何かしたいな。
- 他地域で交流してきたことを活かして府中町を盛り上げたいな。
- 自分にできることを考え、実行したい！

3 整理・分析: 修学旅行で学んだことをどのように活かすことができるだろうか？ (3時間)

○修学旅行で体験・調査した視点を府中町と比較し提案する。思(1)

- 誰に伝えるかによって、表現方法は変えた方がいいと思うよ。
- ICTを使って分かりやすくまとめてみよう
- 京都で学んだこの視点は府中町ではこのように生かせると思う。
- 府中町のよさってここにあるんだな。

○発表の内容を考える。思(2)

- スライドの文字をもっと大きくしたり、短い文章で示した方が分かりやすいと思うよ
- 他の班が体験した活動について聞いてみたいな。
- 相手を意識した発表にするためにどうすればいいかな。
- 今までの発表で学んだことを活かしたいな。

2 情報の収集: 他地域に出て学ぼう(修学旅行)(10時間)

○府中町と比較することを意識し、色々な体験をする。

(グループ活動: 表現) 思 主(1) 行動観察

- USJでは人を惹きつけるためにキャストの人がこんな工夫をしていると言ってたよ。
- 京都での伝統文化の体験でこんなことを学んだよ。
- これは府中町を発信していくときに使えそうだな。
- 他地域との交流から府中町がより見えてきたよ。

○修学旅行で訪れる場所の計画を立てよう 思(1)

- インターネットや本、雑誌でこんなことがわかったよ。
- 現地に行くことでしか分からないことって何だろう。
- 現地の人にこんなことを聞いてみたいな。
- ここではこんなことを学んでみたいな。
- 府中町と比較するためにこんな体験がしたいな。

○課題設定、どのような視点で修学旅行を体験、調査するか決定しよう (本時) リーダー会 思(2)

- クラスで出た意見をまとめると○個の調査の視点がありそうだね
- 他のクラスの視点と似たものがあるけどこういうところが違うな
- これらの視点で調査に行くことをみんなに伝えよう。
- 同じ「和」という視点でも「食事」や「お茶」「建築」「考え方」などのジャンルに分けられそう。一人一つのジャンルで調べることができればおもしろいかも！

1 課題の設定: 府中町をよりよくするために修学旅行で何を調べられるだろう。(8時間)

○府中町(身近)と他の地域を結び付け、府中町をよくするためにどのような視点で調べたいか考える。

(個人思考→グループ活動: 表現) 思 ワークシート, 行動観察

- 「志」の職場体験では実際に社会に出て、体験を通して学んだよ。
- 1年生では府中町について学んだよ。他の地域の伝統なども体験してみたいな。
- 京都の「和」について体験することで府中町の「和」について考えられるかも
- 他地域に出ることで府中町に戻ってきたときに新しい発見ができるかも

○京都について知ろう (全体: 表現) 知 ワークシート

- 実際に行って体験してみたいな。
- 伝統を継承していくためにどんな取り組みをしているんだろう。